

---

こ・く・は・く

遥風 覇鶴渡

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

こ・く・は・く

### 【Nコード】

N1778F

### 【作者名】

遥風 霸鵜渡

### 【あらすじ】

近藤さんに見つめられて、一ヶ月。今日こそは、告白してくれるはずだ……？

最近、同じクラスの近藤しずかと……よく目が合うようになった。

近藤しずかは……僕と目が合うと、数秒間固まって、ぽつと赤くなつたのち目をそらす。

背後から視線を感じる事だってあるから、やっぱりこれって……気があると思えねえ。

彼女と視線が合うようになって、調度今日で一ヶ月になる。

毎日毎日、嬉しくて……カレンダーに印をつけてるから確かだよ。

カンカンと、チョークが黒板を滑る音を聞きながら、俺は頬を熱くして机三つ分向こうに座る、彼女の横顔を眺めた。

黒く艶やかな髪を後ろに束ねたその横顔は、目鼻立ちがハッキリしているとは決して言えない。

日本人特有のノッペリした顔立ちに、ふっくらした頬……。

けど、よくよく見ると普通にかわいい。

細い目は、切れ長でクールだし、低い鼻は小づくりでかわいいし、唇だってほんのりピンク色だ。……なんかそれは言い過ぎかなあ？

うっしっしっ。

好かれてるって思うと、意識しちゃうから……いけないや。

いやあ、でもさ、やっぱり……かわいいよ。

どうしよ俺、告白しちゃうかな？ いやいや、やっぱりここは彼女からでしょうっ！

「終わりっ、ここテストに出るからー」

え？！ マジかよ、聞いてなかったし。

やる気の無い教師が、チャイムの鳴る前に授業を終えた。

間もなく鳴った終業チャイムのあとも、俺はノートを必死で写す。  
テストは大切だもんね、授業はどうでもいいけど。

へっへっへっ、次の授業も楽しみだなあ。

「やべ、間違えたっ」

近藤さあくん、早く告白してよあ。

「いや違う違う、『連用形』」

俺は、こんなにも待ってるからさっ！

「ハートじゃねえ、丸だ丸」

「おい、お前ブツブツきめえぞ……」

隣の席の田中君が、机を気持ち向こうにずらして、そう言った。  
「ごめんごめん」

「いや……。それより、呼んどるぞ？」

田中君の視線の先には……なんと！ 近藤さんが居るじゃないつ。  
俺はガタンと椅子を後ろにやって、できるだけクールに、教室の隅の近藤さんの元へ歩いて行つた。

「な、何だよ？ 近藤」

ぶっきらぼうな俺の声に、近藤さんは真っ赤つか。

「あ、あのね……」

やつぱアレだよな？ コレって告白だよなつ。ズボンのチャック開いてるよとか、そんなの違うよねつ。

「あたし、森田君の……」

ちなみに森田は、俺の名だ！ テヘ。

「後ろに憑いてる方が好きなの！」

「え？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1778f/>

---

こ・く・は・く

2010年10月28日08時42分発行